

刈取り適期を見極め作業を計画的に



産米改良協会 採種情報ページ

乾燥調製は細心の注意を払って行いましょう

1 本田管理

(1) 糊熟期のほ場確認

県のほ場確認（審査）に備えて、1期（出穂期）確認の指摘を改善するとともに、雑草や異形株等の除去を徹底すること。

(2) 病虫害や気象災害の被害発生防止

ア 病虫害の発生状況を注意深く観察し、必要に応じて対処すること。

イ 風水害による被害や倒伏が発生した場合は速やかにJAへ連絡し、指示を受けること。

2 ほ場確認（審査）の対応

第2期（糊熟期）のほ場確認（審査）の基準を満たすよう管理する。

(1) 採種ほ表示板の確認

表示板に記載した品種名、地番、面積等間違いがないか再確認すること。

(2) 自主確認の徹底

事前に複数人による自主確認を行い、問題が無いよう管理を徹底すること。

(3) 審査の同行

ほ場確認時は県の検査員に同行し、刈り分け等の指示内容を確認すること。

3 作業準備

(1) 収穫・調製作業の計画作成

登熟状況に応じて早刈りや刈り遅れが発生しないよう、収穫・調製作業を計画的に行う。

(2) コンバイン・乾燥機等の点検整備

作業前に機械の点検や内部掃除を徹底するとともに、試運転を行い、稼働に問題がないか確認する。

4 適期収穫作業

(1) 籾の黄化率による刈取り適期の判定

今年の夏は気温がかなり高温で推移したほか、株内での出穂の揃いが悪いため、積算気温だけでの判定に頼らず、穂の籾の80%が黄化したら適期と判断することとする。

特に、出穂の時期が揃いにくかった圃場では、試し刈りや刈り分けするなどして慎重に判定すること。

(2) 籾水分を確認して刈取り

籾の水分が高い状態で刈取りすると、籾が損傷し発芽不良の発生や枝梗が残りやすくなるため、籾水分25%以下になっていることを確認してから刈り取ること。

(3) 水口等の登熟不揃いは刈り分け

ほ場内で生育量や出穂時期の差がみられたほ場は、品質事故を防止するため、刈

り分け等により対応すること。

5 乾燥調製

(1) 急激な乾燥を避ける

ア 籾水分と乾燥温度を確認しながら行う。特に、乾燥開始温度は40℃以下とし、急激な乾燥をしないこと。

イ 仕上げ乾燥の籾水分は15.5%以下とすること。

(2) 調製作業は目視しながら細心の注意を払う

ア 枝梗の状況等を確認するとともに、枝梗や脱ぷ粒が混入しないよう適時調整しながら行うこと。

イ 消毒剤の吹付は、規定量となっているかを毎日確認すること。

ウ 種子の量目は、皆掛重量20.5kgに仕上げる。

エ 農産物検査規格に適合するよう調製すること。

<農産物検査規格（種子合格基準）>

最低限度	整粒歩合90%以上、発芽率90%以上
最高限度	水分15.5%以下、被害粒0.5%以下、異物0.2%以下

6 栽培管理記録、ほ場管理野帳の提出

(1) 生産履歴を確認できるよう、栽培管理記録に記載漏れが無いか確認すること。

(2) 収穫が終わったら速やかにJAへ提出すること。

7 収穫後のほ場管理

越冬した「こぼれ籾」からの実生を防ぐため、次により対策を行うこと。

(1) 収穫後、できるだけ早くほ場の水口、水尻を止め、雨水を利用してほ場に水を停滞させ、こぼれ籾の水分を高めて越冬前の発芽や腐食を促進させる。

(2) 消雪後は、排水対策を実施し、耕起作業に備えること。

8 気象情報

気象庁の1か月予報（8/16～9/15）によると

- ・ 暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高い見込み。
- ・ 降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多い見込みとなっている。

たね屋から ひとこと

- 今年は草丈が長い傾向です。倒伏に注意しましょう。
- 適期収穫で品質の高い種子を生産しましょう。